

21 和の街箕田地域づくり協議会



1

和の街箕田地域づくり協議会って？

箕田地区は、鈴鹿市の南東部に位置し、4,625人(男性2,239人、女性2,386人)、世帯数2,058世帯が住む地区です。(令和7年12月時点)
和の街箕田地域づくり協議会は、箕田を誰もが愛着を持ち、住んでよかった、住んでいたいと思えるまちにするために、日々活動しています。



▲みだフェスの出店

2

主な取組

和の街箕田地域づくり協議会は、安全安心部、福祉部、青少年育成部、文化スポーツ部、地域振興部の5つの部に分かれ、日々活動を行っています。
特に大きな地区の行事として、青少年育成部では7月にみだフェスを開催しました。箕田フェスは今年で3回目の開催で、ダンスや演奏の発表、出店などを多くの地域の方が楽しんでいました。
また、福祉部では今年度からの初めての取り組みとなる「和の街お助け鯛」(有償ボランティア)の実施を始めるなど、各部がそれぞれの取り組みを行い、自分たちの力で地域をよりよくしていこうと活動しています。



▲みだフェスにて和の街箕田公式LINEをPR

3

今回紹介するのはこの事業！

今年度からの新たな取り組みとして、「和の街お助け鯛」(有償ボランティア)の活動を始めました。
令和7年3月時点で利用登録者数16人、ボランティア登録者数34人であり、除草や枝切りなどの活動実績25回となっています。



▲枝切りの様子

4

どんな課題や思いがあるの？



和の街お助け鯛は、「箕田地区で暮らす高齢者が「ちょっと困ったな」「助けてほしいな」と思ったときに、地域の方々が有償で支援をする事業です。
箕田地区は高齢者が多い地域なので、協議会で打ち合わせや準備を重ね、今年度の開始に至りました。

5

和の街お助け鯛が生まれるまで！

令和5年7月に、地域計画見直しに伴う住民アンケートを実施した結果、「高齢者支援」への取り組み要望が最も多かった(58%)ため高齢者を対象とする地域の支えあい活動実施に向けて準備を始めました。
まず、令和6年8月に一人暮らし高齢者への支援内容アンケートを実施し、地域のニーズを把握。
それを受けて、令和6年10月～令和7年3月に毎月会議を開催し、規約・マニュアル・支援者募集などの準備を行い、令和7年4月1日にお助け鯛を 設立しました。
活動は、令和7年6月1日～9月30日を試行期間とし、令和7年10月1日から本格稼働しました。



▲地域づくり協議会の会議の様子

6

その事業に参加した人の声

こういった枝切りや除草は高齢者には体力的にも大変だし、業者に依頼するとなるとお金も思ったよりかかる。だからこそ、地域で助け合うことで、高齢者も助かるし、地域の顔のつながりのきっかけにもなる。

